

令和元年度宮崎県立図書館評価表

方策 今 展 後 の 施 展 性 開 の 施	施 策	自 己 評 価			外 部 評 価	
		評価	施策の項目	説 明	評価	意 見
I 全 県 的 な 読 書 環 境 と 図 書 館 ネ ッ ト ワ ー ク 構 築 の 核	1 市町村立 図書館 (室)等の 支援	A	①図書配送システムの活用及び周知	コロナウイルス感染拡大防止に伴う3月の臨時休館や一部サービスの配送休止の影響により、マイラインサービスの貸出冊数及び、図書配送システムを活用した市町村間の相互貸借貸出冊数は目標に達しなかったが、2月までの累積実績は前年度を上回る順調な伸びを示していた。	A	<図書配送システムについて> ●図書配送システムの実績が着実に伸びている。 ●県立学校図書館への図書提供をマイラインサービスで支えており高く評価できる。 ●図書配送システムによって、全県下の約400万冊の蔵書を利用できる環境は、市町村立図書館(室)にとって資料予算の有効活用につながり、利用者の読書環境の満足につながっている。 ●マイライン及び週単位「選書用児童書」の貸出支援は、市町村立図書館(室)員の確かな選書と資料購入及び子どもの読書活動推進に繋がっている。 ●マイラインの活用実績が少ない。学校訪問などをさらに進め利用促進を図ってほしい。
			②「市町村支援チーム」による巡回訪問等	定期訪問やアドバイザー派遣事業を通じて、各館・室を支援することができた。また、新型コロナウイルス感染拡大時における各館・室の開館状況等をまとめるなど各館・室に必要な情報を提供することができた。		<「市町村支援チーム」による巡回訪問等について> ●定期訪問やアドバイザー派遣事業、専門講師による研修は市町村立図書館(室)員の資質向上と読書推進に繋がっている。 ●職員数も制約がある中で、真摯に取り組んでいる。
			③専門研修の実施等	公図連と共催で行った研修を市町村の課題、要望に即したものとすることで、参加者の満足度も高く充実した研修とすることができた。		
	2 学校図書館 の支援	A	①県立学校図書館に対する支援	マイラインサービス対象校を2校拡充するとともに、利用方法を整理したうえで、対象校に説明するなどして、探求学習に必要な資料を提供することができた。高等学校がマイラインサービスで利用した資料の中で、次年度以降も各校で利用が見込まれる資料に分野については学校図書館における選書の助言を行うなど、学校図書館の資料の充実に向けて支援を行う必要がある。	A	<学校図書館の支援について> ●探求学習における利用教育支援の役割は非常に大きい。最新事例の情報共有など、具体的な支援を行ってほしい。 ●児童・生徒にレファレンスサービスについて一層の周知に努めてほしい。 ●県立図書館の市町村立学校への支援、講師派遣や助言は、学校図書館の質と専門性を高め、学校と市町村立図書館(室)との連携強化につながっている。さらなる体系的な支援をお願いしたい。 ●現状の体制で学校図書館の効果的な支援や気軽に相談できるような無理のない支援の形を優先的に検討することが望ましい。
			②学校図書館の活用推進	定期訪問や研修会への職員の派遣を通して、市町村立図書館(室)の学校への支援や連携について助言することができた。		
	3 市町村立 図書館、 学校図書 館、大学 図書館等 とのネッ トワ ー ク の 構 築	B	①人的ネットワークづくり	県内市町村の公共図書館(室)に対して研修や要請訪問等を積極的に行うことにより、「県立図書館の職員とじっくり話をすることで今後の館運営の参考となり、ネットワークづくりにつながった」などの声を得ることができた。	B	<市町村とのネットワークについて> ●人口減や財政上の問題から閉鎖を検討せざるを得ない図書館が今後出てくることを想定し、県立図書館としての関わり方を考えてもらいたい。 ●新型コロナウイルス関連の県内公共図書館(室)の状況について逐一情報提供がありとても参考になった。 <学校図書館とのネットワークについて> ●高校の学校図書館の研究会でビブリオバトルの講師を派遣してもらった。 ●県立図書館と県立学校がモデル的に組んで、探究的な学びを支援してくれるといい。 ●市町村立図書館は現在県立高校と接点がないため、モデル校ができる場合は自治体の市町村立図書館ともつなげてほしい。 ●顔の見える関係づくりの取組はすばらしい。50近くある学校図書館に対して県立図書館の支援を効率よく行うためにも中間サポートの役割は必須と感ずる。
			②大学との連携協力	大学図書館との情報共有や、横断検索への加入及びマイライン接続を拡充するための県内大学への働きかけが十分でない。		<大学連携による学生へのレファレンスサービス周知について> ●レファレンスサービスは、レポートを作成する機会が多い大学では特に有意義だと思われる。学生への周知を含めて大学図書館との連携を進めるべきである。
			③市町村立図書館(室)との連携	マイラインサービスについて、活用実績の少ない市町村を訪問し、サービスの説明や当館HPから本を予約する実習等を行ったことで、サービスを利用するようになった館が出てきた。		
	4 図書館活 動を支 える施 設・シ ステム の維持 管理	B	①所蔵資料の収蔵対策	外部専門家による調査など、所蔵資料の収蔵対策を積極的に進めたが、根本的・将来的な対策の実施に至っていない。	B	<所蔵資料の収蔵対策の検討について> ●貴重書庫の保存状況の問題等十分に検討してほしい。 ●図書館で保存する多くの貴重な郷土資料について、その保存環境のあり方について検討してほしい。 ●法的枠組みを整理しながら、予算化が厳しいことを前提として、収蔵スペースの確保、電子アーカイブ化、県内外での連携保存、図書館施設以外での保存方法や予算確保など、具体的な課題解決を探る議論を進めてもらいたい。 ●書庫増設の可否を早急に判断して対応すべきである。 ●図書館は人々の英知の宝庫であり、県立図書館には特に貴重な資料や蔵書が数多くある。所蔵資料の収蔵対策、老朽化対策については早急な対応が必要と考える。
			②老朽化対策	屋上防水改修工事について第2工区の予算を確保し施工完了した。他の箇所の老朽化対策について計画的に実施していく。		<コロナウイルス感染症対策について> ●コロナ対策について県内の公共施設の中でもいち早く、素早く対応ができていたが、新たな役割も考えてほしい。 ●コロナウイルス感染症感染対応による完全休館を極力避けたことで県民の読書活動が継続できたことは高く評価できる。
			③危機管理対策	総合防災訓練に加えて土日祝日等の少人数体制時の避難誘導や、利用者参加型のシェイクアウト訓練、AED研修等を実施し、危機意識を共有し、改善に向けた共通理解が図られた。		<防災面での危機管理対策について> ●老朽化対策や危機管理対策について、津波被災地では、さらに踏み込んだ危機管理と本を守る取り組みが進められていると聞く。国や県の取り組み体系の中で、命と宮崎の知を守る体制をつくってほしい。 ●災害時など、人命とともに県民の資産である貴重な所蔵物に対する危機管理も必要であり、大変高い専門性を要する。職員の資質向上だけでなく、ハード整備も含め今後の対応を図ってほしい。
			④図書館情報システムの見直し	次期図書館システム更新に向け、館外の情報収集を行うとともに館内で検討を行った。		<図書館システムについて> ●現在の図書館システムは、更新情報が頻りにUpdateされている点や蔵書検索がしやすい点は非常に良い。一方で、次回更新時には”自分が過去に借りた本”の詳細を見られるなど、Myライブラリのさらなる充実を希望する。自分が過去にどんな本を読んできたのか、どのくらい読んできたのか、さらにそこから図書館が統計をとり、貸出回数が多い本を紹介できるならば、ホームページのアクセス数は必ず増え、読書活動の推進にもつながると考える。

方策 今 展 後 性 開 の 施	施 策	自 己 評 価		外 部 評 価	
		評価	施策の項目	説 明	評 価
Ⅱ 県 立 図 書 館 な ら で は の 専 門 的 な サ ー ビ ス の 充 実 (つ づ き)	3 生 涯 読 書 活 動 の 推 進	A	①貸出冊数	県立図書館及び市町村立図書館(室)の貸出冊数は、新型コロナウイルスによる休館が響き、3,780,400冊と達成予定率99.9%に対し94.5%と下回った。	<p><「読書県づくり」をリードする立場としての県立図書館の戦略的提案の必要性について> ●コロナウイルスの休館もあり、貸出数が低下するのは致し方ないが、宮崎県教育振興基本計画において「読書県づくり」が掲げられており、それをリード・指導する県立図書館としては、より戦略的かつ指導的な立場で県の施策に対して提案を行う必要があると考える。</p> <p><子ども室での返却可能対象資料の拡大について> ●現在子ども室では書庫の児童書や一般閲覧室で借りた図書はこどもしつでは返せず、一般閲覧室のカウンターまで返却に行かなければならず、小さな子どもをもつ親にとっては結構負担である。未就学の子どもはなかなか子ども室から離れず、子どもだけをこどもしつに残して一人で一般カウンターまで本を返しに行くこともできない。休館日は子どもの本も大人の本も関係なく一つの返却ポストに返却できるが、開館日に自分で返却する際もぜひカウンターを選ばず一か所で返却できるよう検討していただきたい。</p> <p><SDGsやLGBTQについて> ●本は新しい文化的取り組みの基盤であり、その発信者として図書館はふさわしい。SDGsやLGBTQ等の先駆けた知の提供や企画の実施は、図書館として大きな役割を果たしていると評価したい。 ●これからの時代は、多様性の上からもSDGsやLGBTQへの考え方が重要になる。「各世代ごとの読書活動推進」ではこれらの理解を助ける活動の推進を希望する。 ●子育て就労世代の貸出冊数の減少について、分析・見直しが必要という自己評価における的確な課題抽出は、問題解決に大きく貢献するため高く評価されるべきと思う。</p> <p><県立図書館としてのオンライン読み聞かせについて> ●コストと著作権の懸念はあるがオンラインによる子供向けの読みきかせについて、利用料を無料とする一部の出版社の作品や県が著作権を持つものなど工夫して、ぜひコロナ禍での新しい試みとして実施してほしい。地道で根気がいるが、現状を維持するだけでなく変えていく力がなければ特に地方の図書館に対する年度予算の増額は今後見込めない。</p> <p><「声を出して言葉を楽しもう会」の意義について> ●高齢者に対して「声を出して言葉を楽しもう会」は、知的活動だけではなく、福祉や生きがいづくりなど、図書館の枠にとどまらない素晴らしい活動である。こうした社会全体に寄与する成果は高く評価でき、図書館の可能性や役割を高めるものと考えます。</p> <p><ブックピクニックなど周辺環境を生かした企画について> ●みどりの図書館での「ブックピクニック」は素晴らしい試みだと思う。素晴らしい周辺環境を生かす図書館づくり等はぜひ今後も企画してもらいたい。</p> <p><ビジネス支援サービスや医療・健康情報サービスについて> ●ビジネス情報や医療健康情報サービスについては、WEB上で多くの情報が掲載されており、回転の早いビジネス書籍がどれだけ具体的に役立つのかを把握する必要があるだろう。ただ身近な図書館におけるビジネス相談会の開催は県の取り組みとして意欲を感じる。「連携方法」や「あり方」について、枠にとらわれない検討を行ってほしい。医療についても同様である。</p> <p><近隣の専門機関等との連携> ●立地を生かし、博物館、美術館、図書館、宮崎神宮の4箇所連携した催しがあるといい。</p> <p><高等学校に係る読書イベントへの協力について> ●高校生図書委員講習会への講師派遣や、「高校生ビブリオバトル」大会への運営助言は高校生の生涯読書推進という点で高く評価する。 ●高校教育課が実施した「高校生ビブリオバトル」の運営助言などは、大きな貢献と考える。</p> <p><民間とのコラボレーションによる活動について> ●県立図書館ビジョン懇談会提言では、「行政主導ではない民間とのコラボや場の活用を視野に入れる」とあり、民間を含めたより広いコラボレーションを求めていると感じる。図書館のもつ特性と専門性を踏まえつつ、人材・予算を確保をし活動していく必要があると考える。</p>
			②各世代ごとの読書活動推進	音読会や大人のための読み聞かせ、一般を対象とした読み聞かせ講座などをモデル的に実施し、情報発信することにより県内への普及を図った。	
			③障がい者の読書活動推進	来館が困難な程度の障害を有する方々への無料郵送貸出、視覚障害者等のための音声録音図書の提供などの貸出点数が令和2年度の目標を既に87%上回った。	
			④各世代に共通する読書活動推進	県内市町村立図書館(室)と連携しておすすめの本の作文募集をモデル的に行うことにより、読書活動推進の取組の県内図書館(室)への普及を図った。	
	4 他 の 専 門 機 関 と の 連 携	B	①ビジネス支援サービスの実施	ビジネス支援サービスとして情報提供やセミナー、相談会を継続して実施しているが、より充実したものとするため、相談会のあり方の検討を要する。	
			②医療・健康情報支援サービスの強化	対がん情報コーナーや健康づくり情報コーナーを設置し情報提供を行っているが、コーナーでの展示だけでなく相談会の周知等の情報発信が必要である。	
	5 館 外 活 動 の 実 施	B	①読書関連イベント等への協力	市町村立図書館(室)のイベント・研修への講師派遣や関係各課の読書関連イベント等の運営支援を行った。読書関連イベントの更なる充実を図るため継続した支援が必要である。	

方策今 向展後 性の施	施策	自 己 評 価		外 部 評 価	
		評価	施策の項目	説 明	評価
Ⅲ 「知の共有・創造」による深い学びや課題解決の支援	1 情報アクセス環境の整備	B	①県立図書館としての情報発信	ホームページについて、月により原因不明な約10倍近いアクセス数の伸びを示した時期に目標値を設定したため、目標値には達していないが、基準値の平成28年度と比べると約2倍に伸びている。SNS掲載件数を減らしたため閲覧件数は達成予定率を大幅に下回った。投稿の効果的な頻度や内容について見直しが必要である。フォロワー数は目標を7.6%上回った。	B <p><HP、Facebook以外の情報発信方法について> ●SNSをFacebookに限定せずプッシュ型のメール送信を導入すれば、県図書館の最新情報をより多くの県民に拡散できるのではないかと。 ●今や情報発信はすっかりSNSなどデジタル媒体が主流。ホームページはもちろん、思い切ってインスタグラムまで含めたSNSでの情報発信を躊躇(ちゅうちよ)すべきではないのではないかと。</p> <p><情報発信における評価方法について> ●ホームページのアクセス数やフォロワー数などの定量的な評価は確かに分かりやすいが、変動などもあり、具体的な取り組み成果と結びつけにくい。取り組みに対する具体的な成果や分析と結びつけて評価するよう検討してほしい。 ●県立図書館の現在のホームページは多くの情報発信をしているが、データベース的な機能面のイメージが強く、図書館側が何を見てほしいか、時代やニーズに対応しているのか、また情報の変化に対応できているか等多くの課題があると感じる。必要な情報に対するユーザビリティや、有用なコンテンツに対するアクセシビリティはまだ低く、改善の余地は大きい。</p> <p><Facebookの周知について> ●SNSのフォロワー数については貸出時にレシートにSNSの情報を添えるだけでも効果がでると思う。</p> <p><ホームページの充実について> ●ホームページの効果的なリニューアルやSNSの活用は、県立図書館の他の課題や目標にも波及し、トータルコストの低減等が達成できると思う。「情報を配置する」HPから、「興味をもってもらうようコンテンツに導く」情報発信やプラットフォームのデザインを民間の智慧や技術も活用しながら、今後のAI化も踏まえ、最大限にリソース配分を行ってほしい。</p> <p><Facebookの市町村投稿シェアについて> ●SNSのフォロワー数の年間目標が+50というのは年間利用者約50万人の図書館では少ない。市町村によってはFacebookでお勧めの本を紹介しているが、市町村の図書館等の投稿をシェアする事で、県立図書館をフォローすれば一元的に様々な図書館の情報を知ることができフォロワーは確実に増え、市町村図書館の支援にもつながるのではないかと。</p> <p><GIGAスクール構想について> ●GIGAスクール構想の取組でインターネットを使ったオンラインでの図書館の連携の可能性について考えてもらいたい。</p> <p><レファラルサービス等ワンストップサービスの実績と周知について> ●レファレンスにおいて、図書館から、県の関係部署の担当者を迅速適切に紹介されたことがある。こうした「ワンストップサービス」の存在すら知らなかったため、情報発信は必要かと思う。また、外部評価において、「ワンストップサービス」が行われた回数や事例などがあれば提示してほしい。利用者も理解しやすいと思う。</p> <p><県政の重点施策情報発信事業について> ●1階ギャラリーの県行政の企画展示は楽しみであるが、展示期間も短いため、見逃すこともある。記録をとり公開してほしい。県施策としても、自ら行っている事業を県民にわかりやすくまとめることは、技術や人材育成にとっても有益で図書館と県部署の両方にメリットのある取り組みであり、積極的に行ってほしい。 できれば土日だけでも解説できる事業担当者があるといい。 ●展示だけでなく期間中講座や職員による解説などを実施したとのこと。この動きは歓迎すべき。県立図書館を身近な施設と感じてもらえるべく、このような試みは今後も積極的に展開してほしい。</p> <p><利用態度に問題のある利用者への対応について> ●閲覧室で会話をしたり、騒がしくしたりするなど利用態度に問題がある利用者もいる。図書館職員としても態度や声掛けの加減など難しいこともあるかと思うが、退去や別部屋への移動などの毅然としたルールと周知を図るとともに、声掛けの際は、静かにしてもらえよう記載した「エチケットカード」などを示すなど、スマートな意思表示等の取り組みによって、利用環境づくりの方法もご検討いただきたい。</p> <p><ウィキペディアタウン等の取組について> ●ラーニング・コモンズ及びウィキペディアタウンの官民一体となった取り組みに大いに期待したい。大変素晴らしい活動で応援したい。定期的に関催してほしい。</p> <p><行政レファレンスの積極的取組について> ●政策においては、research by designは非常に重要なことから、逆に提言する立場として、サービス事例の周知や、職員研修に情報提供するなど、積極的な取り組みを進めてもらいたい。</p> <p><市町村立図書館の支援と相互協力について> ●郷土館と併設・近接した県内図書館も多く、地域性や特色を活かした運営が望ましい。それぞれの役割や特性を明確にし、利用者にもわかるよう紹介することにより、より親しみやすく地域学習の基盤となる施設運営になると思われる。 ●市町村立図書館(室)へのアドバイザー派遣及びメールによる「レファレンス通信」は、問題解決に係る市町村立図書館(室)員の資質向上となっている。 ●各市町村図書館の魅力を支える発信も県立図書館でも行ってほしい。地域と連携した取組は市町村図書館から学べることもあり、相互に協力できることがあると考える。</p>
			②効率的・多面的な情報アクセス環境の整備	DB体験講座を実施し、既存サービスの利用者への周知をはかりつつ、新たに「国立国会図書館歴史的音源配信サービス」の提供を開始するなどオンラインデータベースサービスの充実を行った。	
	2 課題に応じた情報サービスや「知の共有・創造」の場の提供	B	①ワンストップサービス	県民や地域の多岐にわたる課題に対しワンストップ窓口としての情報収集に努めているが、より専門性の高い事項に対応できるよう、職員のスキルアップとともに、関係機関・団体などとの連携を推進する必要がある。	
			②多様な情報サービスや学習機会の提供	県政の重点施策情報発信事業として館内ギャラリー展とともに、展示期間中の講座などを実施するとともに、より効率的・効果的な展示に向け運営等の見直しを行った。また、関係各課と市町村立図書館(室)を仲介し、巡回展示を行うことにより広域にわたる図書館における情報発信を促進した。	
3 政策立案の支援	A	③個人や団体、産学官の関係者などの深い学びの場づくり	ラーニング・コモンズ的な活動をロビースペースに限定せず、実験的に「ウィキペディア・タウン」を研修ホールを活用して実施した。		
		①県行政機関や県内自治体への政策支援	県職員向け電子掲示板を活用した行政レファレンス等の広報等利用促進を図り、昨年より利用が増え168件の利用があった。		
4 地域の実情に応じた課題解決型サービス	A	①市町村立図書館(室)の支援	レファレンスサイトの紹介等、市町村立図書館(室)へ向けたレファレンスサービスに関するメールによる情報提供を定期的に行った。)市町村立図書館(室)の要望に応じて地域資料や読書活動をテーマとしたアドバイザーの派遣を行った。		

方策今 向展後 性の施	施策	自 己 評 価		外 部 評 価	
		評価	施策の項目	説 明	評価
IV みやざきの文化の理解・継承の促進	1 地域資料の収集・保存・活用の全県的な促進	A	①より専門的な資料の収集	地域行政資料の令和元年度の受入件数は、目標値を11.1%下回った。地域資料の巡回展を県内6会場で予定通り実施できた。	A <p><地域行政資料の収集・保存について> ●県の行政資料の収集保存について、県と交流しながら図書館の枠をこえて検討してほしい。</p> <p><地域資料のデジタル化について> ●県内市町村の各種資料を幅広く収集しており高く評価するが、整理・保管には手間とスペースが必要で、今後劣化も進んでいくと思われるため、デジタル化に積極的に取り組み後世に伝えてほしい。</p> <p><地域資料の県内担当者同士の情報共有について> ●県内の地域資料収集担当者による情報共有の場、未来に向けた地域資料の在り方等について共有化と促進をお願いしたい。</p> <p><地域行政電子データの保存整理について> ●保存整理されていない地域行政資料については大きな情報損失であり、施策の積み上げが危惧される状況である。最近ではペーパーレス化も進んでおり、電子データでの保管も進められている。こうした情報の保存や整理を、責任ある部署で一括して行う必要があると考えます。</p> <p>●地方行政資料の網羅的収集は、政策支援や、住民の政策理解、政策競争にもつながる。施策資料の網羅と情報整理は、県民が正しく評価、把握するためにも、県全体としてぜひ取り組んでほしい。宮崎の知の収集を担う県立図書館として、リーダーシップをとり提言してほしい。</p> <p><地域資料のデータベース化と公開と市町村連携について> ●地域資料のデータベース化とその公開をさらに進め、市町村立図書館の持つ資料との連携も検討して欲しい。</p> <p><地域資料の活用について> ●展示が頻繁に開催されており、大変魅力的な研究もなされている。</p> <p><若山牧水の県外への情報発信について> 若山牧水など本県文化についてネットや県外他施設での企画展示など検討してほしい。</p> <p><地域情報の周知について> 2階特別展示室で展示を行うことも多いが、動線が外れているため、情報の周知や情報提供は、1階ギャラリーや、閲覧室カウンター付近で行うなど、一層工夫してほしい。すばらしい研究成果である刊行図書も目立つ場所に配置してもらいたい。</p> <p><地域行政資料の活用について> ●地域行政資料収集については行政やコミュニティーセンターなど大いに周知を図り活用を促すべきだと思う。</p> <p><地域資料のデジタルアーカイブについて> ●今後も貴重な資料にふれる機会をつくるために積極的なデジタル化を図ってほしい。</p> <p>●デジタル・アーカイブが、学術的に利用しやすくなるためか検索画面から入るようになっているが、一般利用者としては敷居が高く感じる。資料を楽しむ、触れ合えるようなコンテンツも検討してもらいたい。</p> <p>●貴重書のデジタルアーカイブ公開は、わざわざ県立図書館に足を運ばなくとも内容を確認できる素晴らしい活動である。</p> <p><方言に関する資料発行について> ●宮崎の方言についても学校図書館等とも協力し、資料として残してほしい。</p> <p><「みやざきの言の葉」の活用実績について> ●資料と音声データがダウンロードできる「みやざきの言の葉」について、その活用まで追跡調査をお願いしたい。図書館の枠を超えて全県で活用してほしい。</p>
			②県全体での効率的・効果的な資料収集による資料の充実と共有化	年度内の早い時期に意識調査の結果を各図書館へフィードバックするとともに、意見を聞きながら今後の取組内容等を検討する。	
	2 地域情報の収集・整理・発信	A	①個性と魅力ある地域づくりへの貢献	故小林邦男氏の遺族から寄贈された若山牧水の遺墨等の展示会を実施した。	
			②本県文化の魅力の発信	『佐土原藩島津家江戸日記』を予定どおり刊行した。特別展や企画展を3回実施した。さらに、本館の持つ資源を生かし、幅広い分野の展示を実施することで様々な地域情報を発信する。	
	3 地域情報のデジタル化・データベース化	A	①地域情報のデータベース化による一元管理	当館が所蔵する「佐土原藩島津家文庫」の資料62点をスキャニング、デジタル化し、令和元年度の目標を達成した。	
			②貴重書のデジタル化(デジタルアーカイブ)の推進	41点の資料を新たにデジタルアーカイブに追加し、ホームページに公開した。	
	4 本県の言語文化の継承	A	①「語り部」の養成及び活用推進	プロの声優や舞台俳優を講師に招き、これまで養成した語りの技量を高めるための講座を県北、県南で計8回実施した。各所で語り部の団体を立ち上げ、学校等の施設で語りの講演を始めた人たちが始めている。	
			②「みやざきの言の葉」の普及・活用	計8回の「語り部スキルアップ講座」を通して参加者には冊子を配付した。	

方策今後 向展開の施 性の施	施策	自 己 評 価		外 部 評 価		
		評価	施策の項目	説 明	評価	意 見
V 図書館 ネット ワークを 支える 人財の 育成	1 専門的な サービス を支える 人財の育 成・確保	A	①幅広い知識や技能、ネット ワーク力を有する人財の 育成・確保	2名が司書講習を受講し、司書資格を取得した。 職員の資質向上を図る網羅的な館内研修を行うとともに、専門的な資質向上 を図るため、県外で行われる様々な専門的研修等に職員を派遣した。	B <専門的サービスの均一化について> ●少ない職員の数で幅広いサービスを実現し、その努力は高く評価できるが、利用者の一人としては、どの職員でも同水準のカウンター対応ができる ようスキルを身につけてほしい。 <歴史的資料の保存・活用にかかる人材育成について> ●歴史的資料の適切な保存・公開方法について情報収集に努め、それを担う人財の育成にも努めてほしい。 <人的資源にかかる環境整備について> ●人材の質を高めるだけでなく、持続的に人的資源の運用を図るためにも、職員の労力やコストの負担が低減するような環境整備を推進してもらい たい。 <司書有資格者数の確保について> ●司書講座を受講させ、職員の司書資格取得に努めていることは大いに評価する。司書を増やすことで、県立図書館の取り組み、課題等に関して司 書の目を通しての検証の確度が増すと考えられる。今後も司書資格取得増に努めてほしい。 <専門研修への派遣について> ●職員の方を専門研修に派遣する等レファレンスサービスの充実を目標に掲げ様々なアクションを実施していることは素晴らしい。 <司書有資格者の正規雇用等について> ●専門人材をどのように増やし、県内の図書館や学校につなげていくのか、検討してほしい。 ●司書有資格者のうち、約3分の2は非正規職員とのことだがレファレンスサービスは幅広くそして深い知識、そして経験値が必要であり、本当の意味 でのレファレンスサービスの充実を図るのは難しい。継続して知識を高められるよう、専門職である司書の正規雇用の拡大が図書館全体のサービス 向上につながると考える。	
	2 新たな知 識の習 得・共有	A	①情報の収集及び研修成 果の共有	図書館職員相互の情報共有とスキルアップのため、館内で選書やレファレン スに関する研修等を積極的に行った。 受講した研修で学んだことをふまえ、自館で講座を実施し、その運営ノウハウ について要望のある市町村立図書館(室)に研修を行い、館外へのフィード バックを行っている。 県立図書館及び市町村立図書館(室)とも担当が替わっても、専門性を維持 し、さらに向上できるような取組が必要である。		<時流に応じた施策の調査・研究について> ●長期図書館休館や疾病・お産等の入院、障がい等の理由により来館できない利用者のさらなる読書環境の整備、書籍保存書庫の対策を含め、電 子書籍の調査・研究を深めてほしい。 <人的資源の運用や専門知識の継承について> ●他担当の職員同士による短時間の勉強会は大変素晴らしい人的資源の運用モデルである。また、熟練職員の暗黙知を継承することにもつな がる運営ノウハウのマニュアル化や専門技術の引き継ぎなど、幅広く行ってほしい。 ●担当が替わっても専門性を維持し、スキル向上を図るために、よりレファレンスデータベースを充実させ市町村と共有してほしい。
	3 組織及び 事業の改 善	B	①利用者ニーズや社会の 動向等の把握 ②組織や事業の自己点検 や外部評価による課題の 把握	関係機関を訪問したり展示会や連絡会に参加すること等により、ニーズや最 新動向について情報収集を行った。 (b)図書館評価を実施し、図書館サービスの改善・充実に努めたが、未だ改 善・充実を要するもの、新たな課題等がある。次期アクションプランに反映する よう検討を行う。		<自己評価とその分析について> ●図書館評価について自ら詳細に分析、検討、評価しており、評価に値する。

(注)「評価」のA、B、C、Dの内容は次のとおり。

評価	評価基準の内容	
A	非常に良好である	成果が出ている。
B	良好である	一定の成果が出ている。
C	やや不十分である	一部に成果が上がっていない項目がある。
D	不十分である	成果があまり上がっていない。